黒岩探訪　検索

黒岩探訪バックナンバーが小学校のウエブページに載っています。「黒岩探訪」で検索してください。

黒岩探訪（たんぼう）

30

KUROIWA（くろいわ）

養蚕信仰の証

蚕（かいこがみ）神石造物「絹笠大神（きぬがさおおかみ）」

今年も県世界遺産課事業の絹文化継承プロジェクトに参加しました。四年生が先週から四齢の蚕を六百頭ほど飼い始めました。月末には収繭できる予定です。

そこで今回は養蚕にちなんで、黒岩に残る蚕神の石造（像）物「絹笠大神」を紹介します。（左写真）

今年5月24日の上毛新聞では富岡製糸場世界遺産伝道師協会の調査で、県内の「蚕神」が456件確認できたことが記事になっていました。形態別では文字塔189件、石祠（せきし）71件、社寺70件、石像48件とありました。

『富岡市の石造物』（富岡市教育委員会）によると市内に4件の石造物が残っているそうです。内3件は文字塔で「衣笠明神」（額部）「蚕影大神」（丹生）「衣笠大神」（丹生）と彫られています。残る1件が下黒岩字関口に残る石造（像）物で半肉彫りの絹笠大神立像です。（上写真及び像部分の陰影を強調したものが左図）

前著によると「蚕の守り神である蚕神を祀ることは、養蚕の盛んな群馬県においてはきわめて大切な民俗信仰の一つである。蚕神はオシラサマ、蚕影（こかげ）様、蚕玉（こだま）様、衣笠（きぬがさ）様、絹笠（きぬがさ）様、馬鳴（めみょう）様など地方によって名称は変わるが塔として建てられているものは少ない。この信仰は、個人・家としてなされる場合が多く、刻塔以外に御札で表されることが多かったようである。」とあります。

この下黒岩の衣笠大神像の石造物は、関口の黒澤家の屋敷神様の石祠に並んで建てられています（左写真の右から二番目）。家として蚕神を大事に祭る気持ちが表れているのではないでしょうか。

黒澤様によると建立時期は分からないそうです。黒岩探訪26号に載せたように明治末期の大養蚕農家の一軒に中央地区の黒澤家があり関係がうかがわれます